

園総合 2021 年度 自己評価シート 《結果》

A ; 園経営に対する評価

中期目標	短期目標	努力指標 (保育士の側の目標)	今年度の取り組み、問題点 次年度に向けての改善策	評価 (◎○△)
様々なことに心を動かした人間味あふれる乳幼児の育成	■自己肯定感をはぐくみ、自分に自信をもつ乳幼児を育てる ■多様な感情を体験し心豊かな乳幼児を育てるために、様々な人や自然と触れ合う ■体を十分に動かして遊ぶ中で、心を揺さぶられ深く感動したり探求心 ■人との関係を築く力をつけるために、あいさつや自分のことは自分でする力を育てる	安心して自分を出し保育士との信頼感をもてるようにする	●子供と保育士の信頼関係を築き、安心して子どもたちが生活できるように配慮した。 ●ひとりひとりの子どもに寄り添い、子どもたちが自分の気持ちを受け入れてもらい、寄り添ってもらえることで、萎縮せずに伸び伸びと生きている。次年度もしっかりと子どもに寄り添った保育を職員みんなでこころがけて行きたい。	◎
		一人一人のよさを言葉に表す	●子どもひとりひとりの良い所を職員が言葉にして友だちにも伝えると共に、また本人にも言葉で伝えることで自信にもつなげ、子ども同士お互いの良さを認め合えるように、そして言葉で伝え合えることを楽しめるようにした。今後もそのようにしていきたい。	◎
		道徳性やきまりの必要性に気付く守るという気持ちの芽生えを培う	●園外保育に出る際にも、公共の場での社会的ルールを伝え、守ることで、社会の一員として育っていく事の大切さを伝えてきた。 ●友だちとの小さな約束や、決められたルールを守れたことを褒めて、その気持ちを育ててきた。 ●社会的に良いこと悪いことなどが分かるように、友だちと様々な体験を重ねる中で育っていきけるよう丁寧に関わっていききたい。	◎
		さまざまな遊びが豊かに展開する保育環境や保育教材等を整える	●遊びや生活の中で仲間と共に楽しみ、興味や関心、好奇心や探求心を持って、いろいろなことに関われるように配慮した。今後も豊かな遊びが保障できるよう配慮していききたい。	◎
		小学校の児童・教職員との交流や連携活動を計画的に実施する	●今年度はコロナ禍ということもあり、計画的に交流するのは難しかった。今後もコロナが続くようであれば、戸外を利用したりして感染対策をしながら、少しでも交流できるように検討していききたい。	△
		四季の変化に気付く保育教材の工夫を行う	●園外散歩の際に自然に触れ、草花などで遊んだり、季節ごとに変わる昆虫などに会い触れたりする中で四季の移り変わりを楽しむことができた。また、草花や木々の葉の色の変化なども季節によって変わっていくことを学ぶことができた。木の実を拾ったり、四季折々の樹々の果実を木登り楽しみながら採り食したりして、四季の変化を感じられるように配慮した。 ●花びらで色水遊び等も楽しんだ。	◎
		日本の伝統文化に触れる機会を意図的・計画的につくり伝えていく	●日本に古くから伝わる伝統行事を取り入れ、子どもたちが古くからの文化に触れる機会を多く計画した。 ●子どもの安全面に配慮し、餅つきなどの古くからの文化伝承も大切にしながら、危険回避の検討をし(餅→窒息の危険等)、伝えていけるようにしていきたい。	◎

		栽培活動を行うなかで植物の生育過程を知る	<ul style="list-style-type: none"> ●季節に応じて野菜の苗を畑に植え、成長を楽しみ育てた。野菜を植えたあとの畑の草取りを職員で協力しながら行った。 ●防草シートなども利用し、時間のある職員が協力するなどして畑の管理をしていきたい。 	◎
		栽培物を収穫してクッキング保育を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ●収穫するたび、子どもと料理方法を相談し、すぐにクッキングを行うことで、自分たちが育てたものを新鮮なうちに食べる嬉しさを感じていた。今後も保育の中でクッキングを実地していきたい。 ●感染症対策の為に手洗いをしっかりと、マスク、手袋着用で行った。 ●手袋をして包丁を使用すると野菜が切りづらいなどがあったので指を切らないよう細心の配慮が必要である。 	◎
		解放感や様々な気持ちを味わえるように思い切り体を動かす活動を取り入れる	<ul style="list-style-type: none"> ●自分のやりたいことに向かって心と身体を十分に動かし、意欲的に動けるように配慮した。 ●活動的に遊ぶことの苦手な子への声かけや配慮が難しいが、子どもの心に寄り添いながら身体を動かして、気持ちよく活動できるようにしていく。 	◎
		近隣の公園を利用し、地域との交流や関わりを深める中で、公共の物を利用するときの社会的ルールなどを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ●近所の方に出会ったら元気に挨拶をし、社会的ルールを守ること等を身につけていけるように、園外保育の時などに保育士が行動で見せ、子どもたちが理解できるよう丁寧に声かけし、社会的ルールを身につけられる体験を多くできるように心掛けた。また、地域の方々との交流を楽しめるように関わった。 ●コロナ禍であったため、公園などの利用にも気を使い、感染対策を心掛けてきたが今後も継続して行きたい。 	◎
		基本的な生活習慣の確立（自分で生活に必要なことをする）	<ul style="list-style-type: none"> ●園での生活の中で支援・援助をしながら、自分でできることが増えてくるように丁寧に声をかけたり、見守ったりと配慮した。 ●各家庭にも生活リズムの乱れなどを改善してもらえるようお願いしてきたが、なかなか改善できない家庭も複数あった。 ●家庭との連携をとりながら、子どもの生活習慣が身につくよう、今後も丁寧に関わっていきたい。 	○
		園児一人一人と元気にあいさつを交わしたり、園児が友達や様々な人にあいさつしている姿を認める	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども一人ひとりに声をかけ、元気に挨拶し、子どもからの返事の声のトーンや態度などからその日の子どもの健康観察を行い、子どもの体調や気持ちなどの様子をみた。 ●同じ時刻に数人の登園が重なると、丁寧に受入れることが難しいときもあった。 ●今後も元気に挨拶を心掛け楽しい一日の始まり・終わりとなるようにしていきたい。 	○
地域に愛され、保護者に信頼される保育園	■開かれた保育園づくりをめざし、保護者との連携を図る	園だよりや保護者会を通して保育園への理解を図る	<ul style="list-style-type: none"> ●園だよりやクラスだよりの発行を通して、子どもたちの姿を伝えてきた。 ●コロナ禍の為、保護者会や園行事を縮小しての開催を余儀なくされたため、保護者との連携が例年より難しかった。 	○
		懇談の充実を図り、乳幼児期の保育について情報発信をする	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍のため、懇談会などは人数を制限して同じ内容で2回に分けて少人数に行い、多くの方が安心して参加できるように心がけ、保育の情報発信を行った。今後も感染対策をしたうえで行っていきたい。 	○

資質向上を目指し、意欲的に経営に参画する保育士の育成	■乳幼児の姿を見取り、確かな成長を支える保育士の資質向上	週日案を活用し乳幼児の姿を記録し自分の保育の省察をする	●一人ひとりの子どもの姿を丁寧にとらえ、保育を省みることで、今後の保育を見据える手立てとしていくようにした。今後も省みたことを、次の保育へ生かせるように活用していきたい。	○
	■職員の連携とチーム保育の充実	乳幼児の実態を見直し保育計画の作成を進める	●目の前の子どもの姿をみつめ、発達の見通しを持って保育計画の作成をするようにした。 ●今後も目の前にいる子どもの姿を的確にとらえ、しっかりと子どもの発達を学ぶことで、見通しを持って関わり、保育計画をたてていきたい。	○
		クラス会議(部会)などで乳幼児の保育の方向性を話しあう機会を月に2回以上もつ	●子ども一人ひとりの発達や家庭の様子をとらえ振り返り、担任全員で共有し方向性を話し合う機会をクラスごとに行えるよう設定した。しかし、コロナ禍で濃厚接触者となり休む職員が複数でたりしたため、会議ができないときもあった。今後も手立ての必要な子や家庭生活で心配のある子などの育ちや今後の関わり方等をクラス会議で話し合い共有し合っていきたい。	◎
		クラス担当チームで乳幼児を見守る意識をもつ	●担任それぞれの見方や子どもとの関わり方で感じた子どもの成長について、情報交換をし、共通認識の下で見守っていけるようにした。今後もクラス担任みんなで一人ひとりの子の成長・発達を見守るっていきたい。	○

B ; 保育目標の達成、クラス経営に対する評価

項目		状況・評価・反省
目標	◇元気で生き生きとした子ども ◇自分の要求をしっかりと主張できる子ども ◇身の回りの事が自分でできる子ども ◇豊かな感性と表現力をもった子ども ◇仲間と過ごすことを喜び、仲間のことを考える子ども	●寒い日も暑い日も戸外で伸び伸びと遊び、元気いっぱい生活できている子が多かった。 ●一人ひとりの子どもに丁寧に寄り添い気持ちを受けとめる中で、友達や担任に自分の意志をしっかりと伝えられる子が増えた。また、成長発達と共に、友達の気持ちも受け入れられる子も増え、思いやりの言葉をかけたり優しく接したりと仲間との関わりが深くなってきた。 ●保育士が毎日の生活の中で行っている行動を見ることにより、自分たちでやってみたい気持ちが芽生え、乳児クラスでも自分の靴を片付けたり脱いだ服を片付けたりと、真似をしてやっていた。幼児クラスの子も、自分で身の回りの事をできる子が多くなった。しかし、何度丁寧に声をかけても声をかけたその時だけで、身の回りの片付け等の習慣をなかなか獲得するのが難しい子もいた。自分の片付けなどが苦手な子には、できたことを褒めることで「またやろう!」という気持ちや意欲を高め、段々と習慣化して身につくよう、今後も丁寧に声をかけつつ援助などを行っていきたい。 ●自然の中で五感を研ぎ澄まし、触ったり、嗅いだり、見たり、聞いたり、食べたり、美味しいものを美味しいと感じ、美しいものを美しいと感じ、嬉しいことを喜び、楽しんだり笑ったり、泣いたり怒ったりと、感情豊かに表現できるようこ

		<ul style="list-style-type: none"> ●クラスによっては個人面談などで丁寧に関わる場を設け情報発信した。今後も感染対策をしたうえで行っていきたい。 ●おたよりなどでも情報発信した。 	
	園だよりやクラスだより、生活記録表で、降園時など、園児の生活している姿や成長の姿、保育の意図などを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ●生活記録表を毎日保護者に読んでもらうことで、子どもの園での様子や成長した姿を伝えてきた。園だよりやクラスだよりでも、他の友だちとの関わりや成長した姿などを丁寧に伝えてきた。今後も丁寧に伝えられるように心がけていきたい。 	◎
	クラスだよりの月1回以上の発行と知らせたい内容の吟味をする	<ul style="list-style-type: none"> ●年齢児毎の会議を隔週で行い、その中でおたよりに載せたいことなどを話し合った。子どもの様子がよくわかるよう、写真なども多く掲載した。1クラスなかなかクラスだよりが発行できないクラスがあった。クラスだよりに掲載する内容など吟味する機会を設けても、書く時間が確保できないこともあった。なるべく全クラスが毎月発行していけるようにしたい。 	○
	降園時や面談等を利用し、積極的に保護者に話しかけ、保護者が気軽に話しかけられるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍であるため懇談会や個人面談を多くできない分、登降園時に保護者に短時間でも声をかけ、園での子どもの様子を伝えるようにしてきた。 	◎
	保護者の保育参加の機会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍ではあるが、感染対策をしたうえで保育参加を行った。例年は保護者と昼食も一緒に食べて午睡なども一緒に行ったが、昨年同様、今年もコロナ感染防止のため、昼食はなしで時間も1日ではなく半日ずつにした。 ●保育参加期間中に参加できなかった保護者は、改めて都合の良い日に参加できる機会を設けた。今後も継続していきたい。 	◎
	保護者が参加できる保育参観の機会を設け、活動内容を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ●年3回の保育参観について開催方法を職員全員で検討し、感染対策しながら少人数ずつクラス毎に行った。今後も臨機応変に対応し、中止ではなくその時の状況に応じて工夫して行っていきたい。 	◎
	安全で清潔な環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●登園前、園全体の床の消毒、降園後の各部屋の掃除と、ドアのノブや手で触れる部分の消毒、乳児室のおもちゃの消毒、貸し出し図書室の消毒を行い、清潔に保つ。 ●保育室の床はオスバン消毒、トイレの床や嘔吐の後には次亜塩素酸消毒、ドアのノブはアルコール消毒、おもちゃは消毒の機械に入れる等、用途に応じて消毒薬を変えて使用した。今後も清潔に保っていきたい。 	◎
	月1回の遊具の点検や安全点検をする	<ul style="list-style-type: none"> ●遊具の安全点検を定期的に行った。 ●その他、破損箇所などを見つけたら、その都度修理してきた。今後も同様に気を付けていきたい。 	◎
	乳幼児の姿から援助について学びあう	<ul style="list-style-type: none"> ●研修などで乳幼児の姿を学び、お互いに学んだことを伝え合った。目の前の子どもの成長発達にあわせて、必要な援助を行えるように今後もしていきたい。 ●職員みんなの学びとなるよう、研修などで学んだことを伝え合い共有してきた。今後も学びを伝え合い学び合い、子どもの発達に応じた援助ができるよう共有していきたい。 	◎

	<p>の制止の声に耳を傾けず、ふざけたり飛び出してしまったりする子が年々多くなっている感じがする。命を守るうえで大事なことなのでしっかりと伝えられるよう対応を考えていきたい。</p> <p>●遊具の定期的な点検の他、危険だと感じた場合、また、危険な箇所に気が付いた職員はその都度、事務所へ報告し修理してきた。今後も定期的に安全点検を実地し怪我などにつながらないように配慮していきたい。</p>
遠足	<p>●コロナ感染拡大防止の為親子遠足はできなかったが、今後もコロナ感染状況をみながらその時々に応じた計画を立て、親子みんなが楽しめるものを計画していきたい。</p> <p>●春夏秋冬に1回ずつ子ども遠足を行い、園から歩いて行ける所へ子どもたちが楽しめるように配慮し計画した。園外の戸外で昼食を食べられる経験ができるようにし、子どもたちの笑顔がたくさんみられとても良かった。今後も子どもたちが喜ぶような計画を立てていきたい。</p>
水遊び・夏季プール	<p>●夏季プールは監視役を確実に2人配置するのが難しいため行わず、代わりに、ホースを利用したりシャワーを利用したり、スプリンクラーやバケツ、ペットボトル、ブルーシートなどを利用して、水遊び体験をたくさんできるように工夫した。ブルーシートを築山に敷いて水を運んで作ったウオーター滑り台を楽しむ姿がみられた。今後も夏ならではの遊びをたくさん考え充実した遊びが展開していけるように工夫していきたい。</p>
飼育栽培	<p>●自分たちが散歩先で捕えてきたザリガニやドジョウ・メダカ・バッタなどの飼育をするにあたり本をみて学び行ったが、死んでしまう事も多々あった。命の大切さを学ぶ中で生き物を大切に飼育すること大事さと難しさを学ぶことができた。</p> <p>●春から夏にかけて畑に野菜の苗を植え、水をあげ、草むしりをし、大切に育て収穫の喜びを体験した。職員みんなも除草など協力した。野菜を栽培したことで野菜の成長に興味を持ち、その後のクッキング保育へと繋がるなかで、野菜の苦手な子どもも少しずつ食べられるようになった子がいた。今後も飼育や栽培などの体験を多く取り入れていきたい。</p>
幼保小・地域との連携	<p>●コロナ禍ということで、幼保小の地域との連携の研修のみ zoom で行われた。感染防止ということで、同地域の小学校へ訪問しての園児と小学生の交流は行われなかった。3月になり、小学校への入学直前で各学校と電話にて連絡を取り合い連携をおこなった。また、数校の学校の先生には直接来園していただき連携をおこなった。コロナ禍以前のように子どもたちが学校生活で不安にならないように、学校へ遊びに行き交流し、安心して入学できるようにしてあげたかった。今後、コロナ感染が落ち着いたら以前のように連携し交流を深めていきたい。</p>
園内研修	<p>●ZOOM のシステムなどを活用し、職員全員で研修に参加することができた。ZOOM 研修で多くの職員が学ぶことができ良かった。今後も職員みんな子どもたちを中心に据えて保育していけるように学び続けていきたい。</p>
懇談会、面談	<p>●コロナ禍の為、懇談会はクラスの人数を半分に分け同じ内容で2回ずつ行い、保護者には都合のつく方に参加していただいた。都合が悪く参加できなかった保護者には後日面談日を設けた。また、懇談会で話し合った内容を分かりやすくまとめ、欠席した保護者にも伝わるように工夫した。また、クラスによっては、春から夏にかけて懇談会、秋から冬にかけて面談を行って保護者との交流を深めた。</p> <p>●またどのクラスも面談の必要のある家庭は随時行った。</p> <p>●今後もコロナ禍でもその時々に応じて、臨機応変に開催方法を検討し行っていきたい。</p>
読み聞かせ	<p>●0歳児から年長児まで読み聞かせを大切に行ってきた。聞く側の発達にあわせて内容のものを選んだり、子どもの希望のものに応じたりし、そこから受け取る子どもの表情や育ちを大切にしたい。</p> <p>●コロナの感染対策として、クラスのみんなが集まるので、換気に気を付けて読み聞かせを行った。読み聞かせは子どもの育ちの中でとても大事なものであるためこれからも大切に、丁寧に行っていきたい。</p>
その他	<p>●コロナ禍で今までとすべて同じとはいかず、行事など一つ一つ職員みんなでやり方を検討して、感染対策を行ったうえで開催とした。保育の上でも友だちとの関わりが人数となってしまいうちでは、感染対策はしていても心配だった。しかし、子どもの成長発達の上では、友だちとの関わり合いが大切なことなので、今後も感染対策の検討をしつつ前向きに考えていきたい。</p>
職員会議など	<p>●職員会議で多くの人数が集まると、コロナ感染の心配もある中で、少人数に分かれてグループ討議を多く行った。</p> <p>●全職員で行う時は、広いホールを使用し、大きな声で飛沫が出るのを防ぐためマイクを使用し、ひとりが使用するたびにマイクの消毒も行った。</p> <p>●会議ではベテランばかりが発言するのではなく、若い人たちも発言がしやすいように工夫した。また、みんなと</p>

		<p>ころがけてきた。また、丁寧な言葉かけや絵本や紙芝居の読み聞かせの中で、言葉豊かに発したり、豊かに表現したりリズムや歌などで自由に身体を動かして表現したりできた。今後も感性豊かに成長することができるよう配慮していきたい。</p> <p>●仲間と一緒に過ごせることを楽しみ、喜び合い、自分のことだけでなく友だちのことも思いやれるように、毎日の生活の中で関わってきた。どのクラスも友だちのことが大好きな子が多く、一緒に過ごせることを喜び楽しんでた。今後も自分も友達も同じように、大切に大好きと思えるよう丁寧に関わっていききたい。</p>
保育の重点	<p>◇生命の保持 ◇健康 ◇情緒の安定 ◇環境 ◇人間関係 ◇言葉 ◇表現 ◇食育</p>	<p>●その子その子の大切にしたいことや、そのクラスで今、大切にしたいことなどを担任同士で共有し一人ひとり丁寧に関わるよう配慮してきた。そのような関わりの中でひとりひとりの子どもが意欲的に活動できるようにしていきたい。</p> <p>●食育の中では、自分たちが栽培し収穫し調理するという経験は、食材を知る上でも大切なことなので今後も大事にしていきたい。また、さっきまで泳いでいた鯉を自分たちで掴み取りし、目の前でさばいてもらい自分たちも包丁を持ち切り身にして食する体験は、命を頂く貴重な学びとなった。</p>
環境の構成	<p>◇健康支援 ◇安全対策 ◇環境衛生管理◇事故防止 ◇保護者・地域への支援</p>	<p>●コロナ感染防止の為に消毒や手洗いを徹底した。食事の際にも飛沫感染を避けるために、今まで5人で使用していた机を新しく多めに購入し、2人での使用にした。また、机と机の間を空けたり、空気の流れを考慮しクラスのドアを開けて食べたり、廊下で食べたり、天気の良い日には庭で食べたりし、感染対策をしながら子どもたちが楽しく感じられるようにと配慮した。</p> <p>●事故防止の為に危険と感じた破損箇所や不備の箇所はすぐに直した。</p> <p>●安全に子ども達が過ごせるように見守りながらも、子どもの成長発達の為に必要な経験ができるように配慮した。</p>

	問題点・検討点・改善点
伝統行事	<p>●コロナ禍の為、職員で検討し感染対策をしっかりしたうえで伝統行事を進めた。日本古来の伝統行事を子どもたちに伝承していくことはとても大切なことなので、今後も感染対策をした上で、可能な方法を考え行っていきたい。</p>
食育	<p>●コロナ禍でのクッキング保育は、消毒やマスク・ビニール手袋を着用するなどして細心の感染対策の配慮をしながら行った。子どもたちにとってはとても大事な経験となるので、クッキングをしないのではなく今後も対策をしながら行っていきたい。</p>
誕生会	<p>●アレルギーの子へも配慮しながらメニューを工夫し、クラスのみみんなで楽しめるようにした。毎月の誕生会で、マンネリ化しないように給食の職員だけではなく職員みんなで会議を持ち考えてきた。今後も子どもたちの喜び誕生会メニューを考えていきたい。</p>
避難訓練	<p>●訓練を重ねることにより、子どもたちは放送の音に敏感に反応して落ち着いて素早く避難行動をしていた。</p> <p>●担任が人数確認後の報告の際、出席の子の人数と休みの子の人数だけでなく、休みの子は見落としを防ぐためにも名前の報告を忘れないようにしていきたい。</p>
安全指導・安全点検	<p>●散歩中の安全な歩き方や道路の渡り方など、園外に出る際は常に伝えていく。ふざけて道へ飛び出してしまう子へは、真剣に命の大切さを伝えていく必要があるため職員も厳しい表情で対応した。危険な十字路口などでも職員</p>

	は違うひとりの意見も大切に、検討を行った。今後もみんなが発言しやすい会議運営を行っていききたい。
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ●築年数が経過し9年目となり、修理の必要がある所などが少しずつ出てきた。縁側や廊下の水道まわり、下駄箱などは職員みんなで塗装をしたりして、手入れを行っている。今後も施設を大切にしていきたい。 ●設計士さんに修繕計画をたててもらい、それを参考にして少しずつ修繕をして施設を大切に保っていききたい。使いにくい所などは修繕の際に、使いやすいように提案し直していけるようにしたい。
連休中当番、園庭開放 本貸し出し等	<ul style="list-style-type: none"> ●連休中の当番は交代制で順番に行った。 ●園庭開放と絵本貸し出しについては、返却のつど『クリーントイ』という滅菌庫で消毒を行った。 ●園庭開放については地域の子育て支援拠点として、決められた日に決められた時間内で5組までとし、コロナウイルスが感染拡大しないように対策をとった上で行った。 ●今後も感染対策をしながら、園庭開放や絵本の貸し出しなどを在園の子も在園外の地域の子も支援していきたい。
その他	

～「子どもを尊重する保育」のために～

人権擁護のためのセルフチェックリストにて保育士全員が、自分の保育の振り返りをおこなった。

- ①子ども一人ひとりの人格を尊重しないかわり
- ②物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉かけ
- ③罰を与える・乱暴なかかわり
- ④ひとりひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかわり
- ⑤差別的なかかわり

以上のチェック項目の中で、どの職員も良いかわりが多かった。